

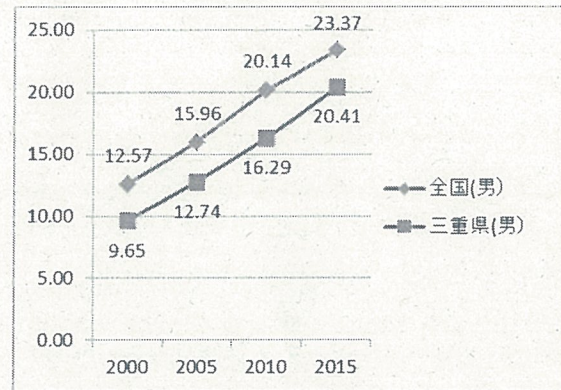
資料1-1
【自然減対策】

合計特殊出生率に関するデータについて

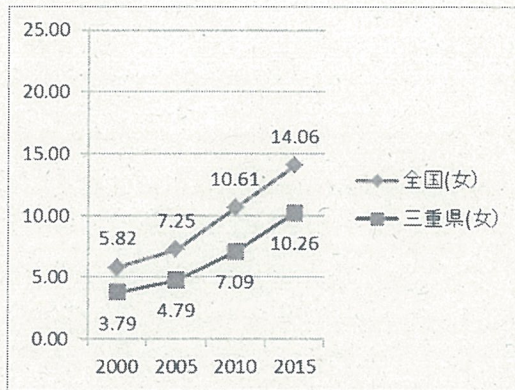
- 本県においては生涯未婚率が年々上昇しているとともに、平均初婚年齢も上昇しており、未婚化・晩婚化が進んでいます。
- 直近の国勢調査実施年である平成27(2015)年と前回の平成22(2010)年を対象に、女性の年齢別(5歳階級別)に合計特殊出生率を比較すると、晩産化の傾向が見られます。
- 「第6回みえ県民意識調査」(平成28年度実施)の結果からは、未婚者のおよそ6割が「いずれ結婚するつもり」と答えており、特に18歳~20歳代と30歳代の未婚者ではおよそ8割が「いずれ結婚するつもり」と答えています。一方、過去2回の調査と比較すると、「いずれ結婚するつもり」と答えた方の割合が減少傾向にあります。

結婚をしたいという県民の皆さんの希望がかなうよう、引き続き出逢いの場の情報提供や結婚支援の取組を推進することが重要です。

【図表1】 生涯未婚率の推移
(男性)



(女性)

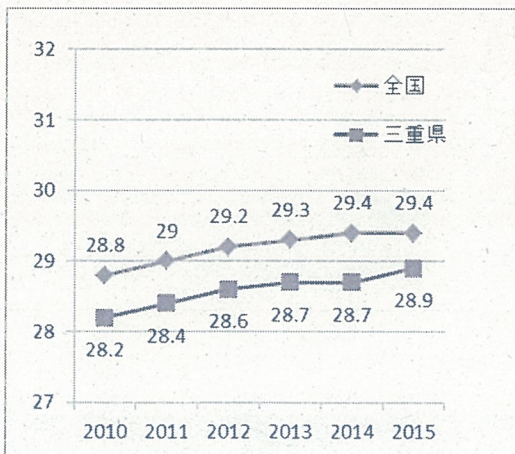


※国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」(総務省統計局『国勢調査報告』より算出)から作成

【図表2】 平均初婚年齢の推移
(男性)

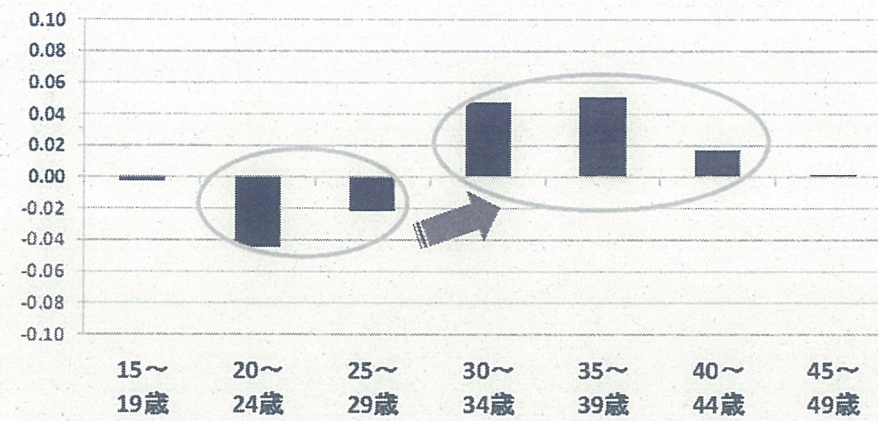


(女性)



※国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」(『人口動態統計』による)から作成

【図表3】 三重県の女性年齢(5歳階級)別にみた合計特殊出生率の増減
(平成27年と平成22年の比較)



※女性人口は、「国勢調査人口等基本集計(総務省統計局)」から、子ども人口は、「人口動態調査」から作成。

【図表4】 「第6回みえ県民意識調査 集計結果報告書」より一部抜粋

	□いずれ結婚するつもり	□結婚するつもりはない	□不明
未婚(今回調査) n=618	59.4	33.2	7.4
未婚(前回調査) n=702	66.2	30.9	2.8
未婚(第3回調査) n=707	70.2	27.0	2.8

※前回調査は平成27(2015)年度、第3回調査は平成25(2013)年度実施。

※以下は今回調査(第6回みえ県民意識調査)の回答内訳

	□いずれ結婚するつもり	□結婚するつもりはない	□不明
男性(303)	60.1	33.7	6.3
女性(299)	59.2		8.4
18歳から20歳代(228)	80.7	14.5	4.8
30歳代(119)	76.5	14.3	9.2
40歳代(101)	43.6	48.5	7.9
50歳代(90)	34.4	57.8	7.8
60歳代(37)	10.8	78.4	10.8
70歳以上(24)	8.3	79.2	12.5

- 合計特殊出生率に関係の強い指標である未婚率及び有配偶出生率については、本県の特徴として、未婚率が低いものの有配偶出生率も低いことがあげられます。
- 子どもを持つことについて、「第6回みえ県民意識調査」の結果はこれまでの3回の調査結果と同じ傾向であり、子どもを希望する割合が高いものの、理想の子どもの数と現実の子どもの数にギャップがあります。

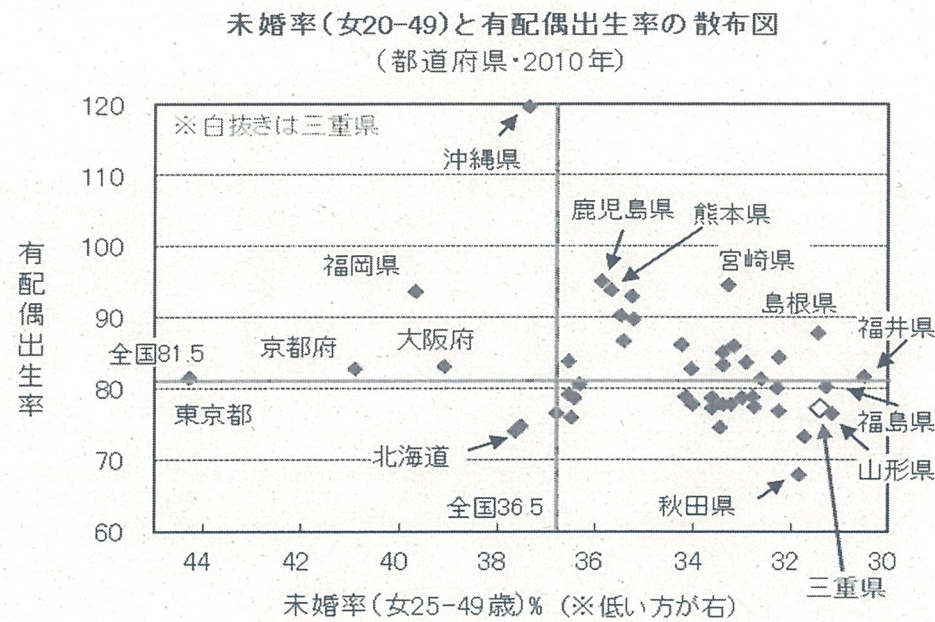
「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の要因分析にもあるとおり、本県の自然減の要因については、未婚化や晩婚化の影響に加え、結婚しても子どもを産み育てにくい環境があると考えています。

県民の皆さんの妊娠や出産の希望がかない、安心して子どもを育てられるようしっかりと取組を進めることが重要です。

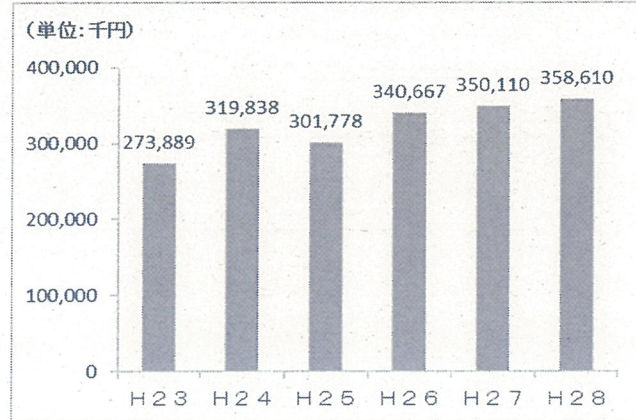
たとえば、本県では不妊に悩む家族が安心して治療を受けられるよう不妊治療費助成の取組を進めてきたところであり、助成額が年々増加しています。引き続きこうした取り組みを市町と連携しながら進めていくこととしています。

【図表5】未婚率と有配偶出生率（三重県）

※三重県人口ビジョンより



【図表6】特定不妊治療費助成事業の執行状況（三重県）

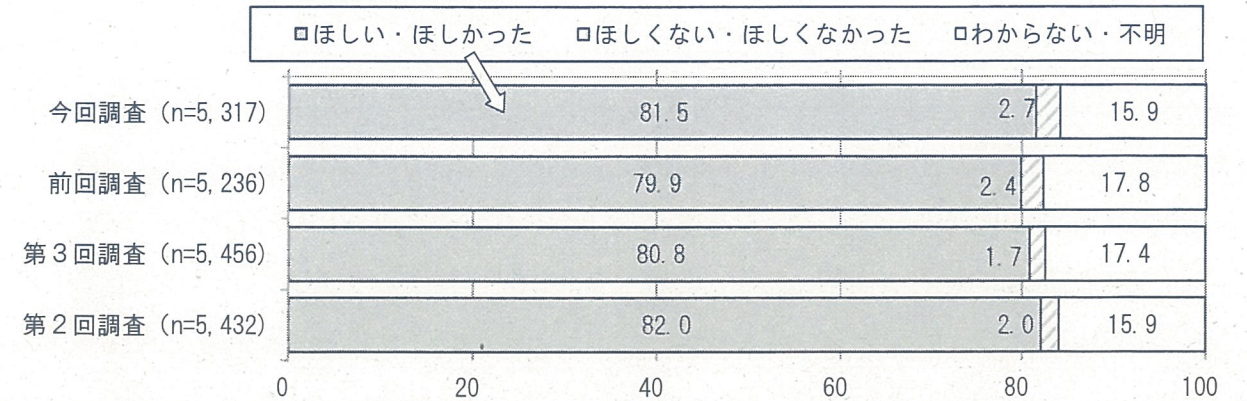


※特定不妊治療とは、不妊治療のうち、体外受精及び顕微授精のことをいう(採卵前に治療を中止した場合を除く)。

※平成28年1月20日以降は男性不妊治療(精子を精巣又は精巣上体から採取するための手術)を含む。

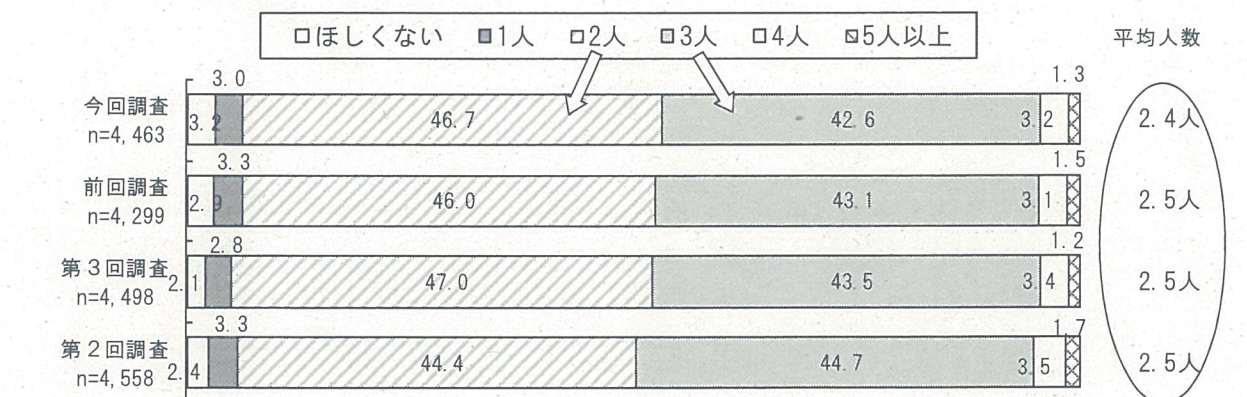
※特定不妊治療=体外受精+顕微授精+男性不妊(28.1.20以降)

【図表7】「第6回みえ県民意識調査 集計結果報告書」より一部抜粋
子どもを希望する割合



※前回調査は平成27(2015)年度、第3回調査は平成25(2013)年度、第2回調査は平成24(2012)年度に実施。

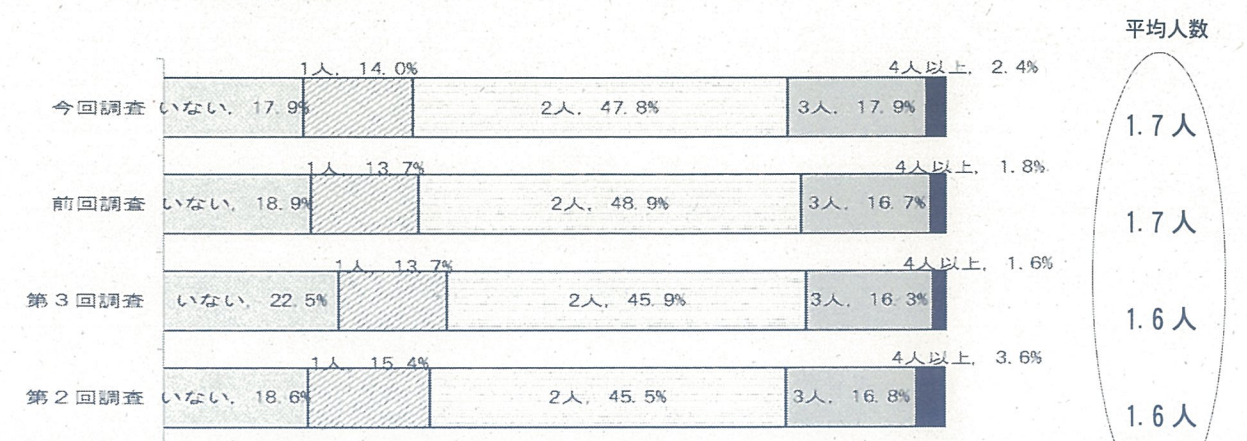
【図表8】「第6回みえ県民意識調査 集計結果報告書」より一部抜粋
理想の子どもの数



※理想の子どもの人数が明記された回答及び「ほしくない」と回答した方を対象に割合を算出しています。

※平均値の算出にあたっては、「ほしくない」の回答を「0人」としています。

【図表9】「第6回みえ県民意識調査 集計結果報告書」より一部抜粋
子どもの数



※「不明」を除いて回答割合(%)や平均人数を算出しています。

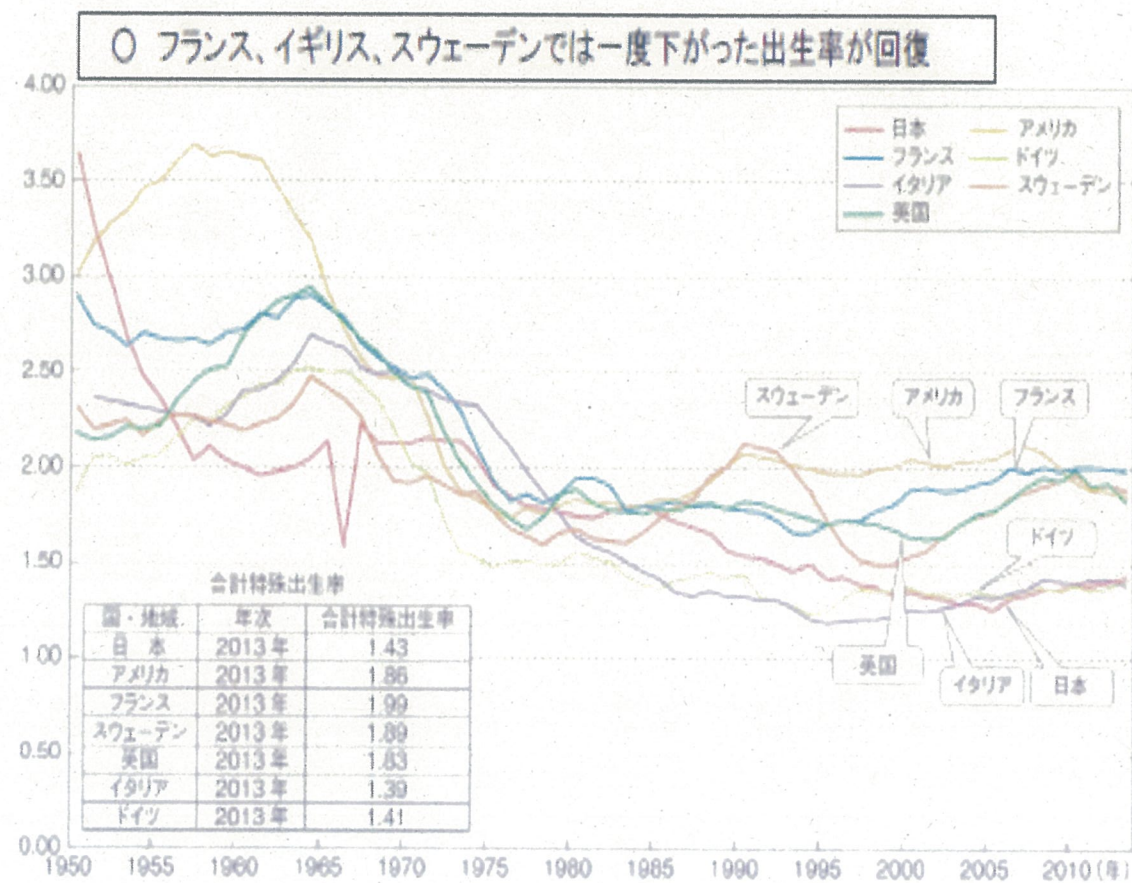
● 合計特殊出生率とそれに関連すると考えられるデータの国際比較の資料から、以下のことが読み取れます。

- ① 出生率が回復したフランスやイギリス、スウェーデンにおいては、日本と比較すると長時間労働者の割合が低く、夫の家事・育児時間が多い。
 - ② フランス、スウェーデン、ドイツ、アメリカでは、女性の第1子出産年齢は初婚年齢よりも早く、日本とは状況が異なっている。なお、こうした国々では、同棲が一般化していて、婚外子が受け入れられているという背景がある。
- 出生順位別の増減を全国と比較すると、本県は第1子の出生数の減少は小さく、第2子と第3子以降の出生数の減少が大きいという特徴があります。

少子化対策においては、未婚率や有配偶出生率の向上に向けた取組も重要ですが、長時間労働の是正や男性の家事・育児への参画促進といったワークライフバランスの取組も推進することが重要です。
また、出生順位別の増減を踏まえ、より効果的な取組を検討することも重要です。

【図表10】

※内閣府HPから（「少子化社会対策大綱の具体化に向けた結婚・子育て支援の重点的取組に関する検討会（第1回）」 配布資料より抜粋）



【図表11】

※内閣府HPから（「少子化社会対策大綱の具体化に向けた結婚・子育て支援の重点的取組に関する検討会（第1回）」 配布資料より抜粋）

	日本	フランス	イギリス	スウェーデン	ドイツ	アメリカ
合計特殊出生率	1.43 (2013)	1.99 (2013)	1.83 (2013)	1.89 (2013)	1.41 (2013)	1.86 (2013)
女性の平均初婚年齢	29.3 (2013)	30.8 (2011)	—	33.0 (2011)	30.2 (2013)	25.8
第1子出生時の母親の平均年齢	30.4 (2013)	28.6 (2006)	30.6 (2010)	29.0 (2011)	29.0 (2011)	25.1 (2005)
長時間労働者の割合 (週49時間以上) (2012年)	計 22.7% 男性31.6% 女性10.6%	計 11.6% 男性16.1% 女性 6.5%	計 12.0% 男性17.3% 女性 5.8%	計 7.6% 男性10.7% 女性 4.2%	計 11.2% 男性16.4% 女性 5.0%	計 16.4% 男性21.8% 女性10.2%
夫の家事・育児時間	1:07 (2011)	2:30 (2004)	2:46 (2004)	3:21 (2004)	3:00 (2004)	2:58 (2013)
家族関係社会支出の 対GDP比 (児童手当、保育サービスなど)	1.36% (2011)	2.85% (2011)	3.78% (2011)	3.46% (2011)	2.11% (2011)	0.72% (2011)

【図表12】 出生順位別の増減

※「平成28年人口動態統計」から作成

三重県（出生数）

	H27	H28	増減（率）
第1子	6,265人	6,143人	△122人（△1.9%）
第2子	5,317人	4,925人	△392人（△7.4%）
第3子以降	2,368人	2,134人	△234人（△9.9%）
計	13,950人	13,202人	△748人（△5.4%）

全国（出生数）

	H27	H28	増減（率）
第1子	478,082人	459,750人	△18,332人（△3.8%）
第2子	363,225人	355,786人	△7,439人（△2.0%）
第3子以降	164,370人	161,443人	△2,927人（△1.8%）
計	1,005,677人	976,979人	△28,698人（△2.9%）